

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 11月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502173		
法人名	社会福祉法人 春海会		
事業所名	グループホーム エクセル鞆の浦		
所在地	〒720-0203 広島県福山市田尻町4115番地 (電話) (084) 983-5888		
自己評価作成日	平成26年10月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3471502173-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年11月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

くつろぐ場や食事をする場の区別をすることで、家庭的な生活環境を整えています。職員と一緒に掃除や洗濯、食事作りや盛り付けを行う事で、残存機能の維持と認知症の進行予防に努めています。上記のことが難しい方は、食事の味見や車椅子から椅子へ座って頂き、姿勢を整えることで嚥下状態にも気をつけています。高齢者虐待防止の取り組みの一つとして、言葉の虐待を行わない為に、日々の申し送りや毎月の介護会等で認知症の諸症状について学んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

瀬戸内海が眺望できる高台にある総合福祉施設の1階2ユニット2階1ユニット計3ユニットある事業所で、周りには四季折々の木々があり季節に応じて楽しめる環境にある。広大な法人施設を利用して地域の祭りイベントなどに敷地を提供し地域の交流場として中核的な役割を果たされている。事業所の管理者・職員は、常に尊厳やプライバシーを守るための対応に日々心掛け毎月の介護会で職員が課題ごとに講師担当して研修を行っている。オムツゼロを目標に利用者の排泄パターンを把握しオムツからリハビリパンツ、リハビリパンツから布パンツと地道な努力で実績を挙げている。施設から眺めれる景観と同様に施設内も穏やかな雰囲気の中で利用者の方々が生活されているのが印象的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針と経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度はじめに作り実施している。	法人理念の下、事業所は毎年介護会で職員が話し合い品質目標を策定しカンファレンスにおいて品質目標に対する自己点検を常に行い、法人理念を共有し実践に繋げるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭りやでんざいを作り配っている。夏祭りはここを会場として地域との交流を行っている。また12月は地域の方を呼んで入居者と職員とでしめ縄を作っている。	施設周辺には、他の公共等の施設が無いため地域の祭り、季節のイベント等に施設の敷地を会場としてご利用頂き催事の際ごとに地域との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に2ヶ月に一度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度の運営推進会議での報告の内容等を、介護会で話し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、行政、地域包括支援センター、民生委員、町内会長、家族が参加され毎回テーマを決めての会議で活発な意見が出されている。	運営推進会議で事業の運営に関するもの及び事故報告、ヒヤリハットなどの開示がなされていない。今後運営に関する評価を頂ける会議に向けての取組みを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険課の職員、地域包括支援センター、民生委員、町内会長に運営推進会議へ参加して頂き、協力関係を築くように努めている。	市職員、地域包括支援センター職員と連絡を密に取り協力を頂けるように取り組まれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上での拘束、ベッド上での拘束をしない事になっている。</p> <p>言葉の拘束にも気をつけて入居者の行動を抑制しないようにしている。</p>	<p>介護会で月に一回各種テーマを決めて講習会を行っている。職員がテーマごとに講師を務め自己研鑽に努めている。身体拘束は勿論のこと言葉による（スピーチロック）弊害を理解してケアの取り組みに努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会がある。意識を高めることで虐待をしない、させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書を基に説明を行い、家族の疑問点にもお答えして理解と納得を得て入居して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見を言って下さるよう説明をしている。職員は家族面会時に積極的に話しかける等して、話し易い雰囲気を作っている。</p>	<p>年に1回利用者、家族アンケートを実施して利用者家族の意向を把握できるように努めている。11月には家族会を開催して意見要望を引き出せる場所を設けて意見の運営への反映に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また施設内に改善提案箱を設けて職員がいつでも意見を言えるようにしている。	施設内に改善提案箱を設けて色々な意見を引き出す工夫がなされている。又、虐待防止アンケートを全職員に無記名方式で実施し職場内の問題点を把握する貴重な内容であり、職場運営等の改善に反映させている。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	スタッフ会議で取り組みの成果を発表したり、賞与の考課を元に把握している。		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	ISOによる職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	地域での研修を通して交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	事前面接において家族と本人の話をよく聞き、入居後は職員や入居者同士のコミュニケーションを図れるケアプランも作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>事前面接において家族と本人の話をよく聞き、入居の契約時も家族の意向を必ず確認している。入居後も何かあれば連絡をとっている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>家族と本人の意向をしっかり聞いてケアプランに取り入れている。リハビリ等の支援も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>洗濯、掃除、食事作り等を一緒に行い、役割を持って頂く事でやりがいを感じて頂けるよう支援している。又、感謝の言葉を掛けることで、必要とされていることを実感して頂いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族が定期的に面会に来られご本人が好きだったおやつを介助して差し上げる事で精神的に不安定な方も安心して過ごすことができ、また何かあれば家族へ連絡して情報の共有をする事で関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。</p>	<p>複合施設であることを利用し、施設内に来られている友人と面会したり、馴染み場所との関係を維持するため、墓参りや美容院など出来る限り支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハレクで利用者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。	家族利用者アンケート等で意向についてお聞きし対応している。困難な場合には日々の生活の中で本人の何気ない言葉を理解し汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から或いは家族に聞いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有しサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事を記入し把握するように努めている。又、申し送り等職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時に本人及び家族と話し合いサービス計画書を作成する。1～2ヶ月後に看護師、担当介護員、介護主任、ケアマネでカンファレンスを持ち、再度サービス計画書を作成している。</p>	<p>入居時に本人家族と話し合いサービス計画書を作成し、1か月後に利用者、家族、職員、看護師等の関係者の参加によるカンファレンスを開催して現状に即したサービス計画書を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランチェック表やケース記録等で、モニタリングを行いケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の散歩等も他部署の廊下を利用している。 一般浴が困難な入居者に対して、他部署の特浴を使用することで、安心して入浴して頂いている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>あんず祭や菜の花祭りに参加して頂く事により地域の方との交流を深める事が出来る。また毎年年末には地域の方が来られしめ縄作りを一緒に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の症状により、係りつけ医を決めている。又、必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診を行っている。</p>	<p>入居時に利用者、家族から同意を得て特に要望が無い場合は近隣の藤井内科、徳永病院に受診している。専門性のある疾患の場合は上記の協力医から専門の病院を紹介して頂き適切な医療が受けられるよう支援に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>毎日朝と夕方に看護師へ入居者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得た上で介護計画書を作成し、職員と情報共有を行っている。又、家族が希望すればターミナルケアを行っている。</p>	<p>重度化に向けて本人、家族、関係者（職員、提携医、看護師等）と連絡を密に取り、本人家族の意向を聴きながら対応に努めている。医療との連携は、提携医に相談し事業所の出来る事を本人家族に説明し対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>介護会や施設内研修で何度も学んでいる。また実際に遭遇した事例は職員間で共有し実践力につなげている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年に2度消防訓練を行って、火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。</p>	<p>消防署の指導の下、4月と10月に施設全体の大掛かりな火災訓練を実施している。1回は夜間を想定し、避難経路の確認及び手順を把握して緊急時の際に冷静に対応できるよう訓練に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに尊厳がある事をしっかり伝えた上で、命令口調や指示的にならないこと、排泄介助の際は周囲の方にも配慮した声掛けをする事でプライバシーの保護にも努めている。そして職員の表情や態度にも十分気をつけている。	介護会の研修の中で絶えず研修項目に挙げ命令口調の声掛けや日々の言葉遣いについて研修を重ねている。間違った声掛けによる弊害を職員は意識し誇りやプライバシーが保たれる声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事作りは何を食べたいかを会話の中で聞いている。又、日常生活の中でもまず、「どうしましょうか」と本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は無理をせず遅食にしているが、何でも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れには注意し、食べこぼしがあれば食後速やかに更衣している。又、散髪や爪切りも定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、食器を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。又、一緒に盛り付けをする事で食事を楽しんで頂けるようにしている。	施設内厨房で一括調理されている。毎月食事向上委員会が開催され、メニューの要望を出して利用者の希望に合った食事が提供できるようにしている。毎週水曜日は、厨房が休みの為、利用者の要望でメニュー決めて事業所内で調理し食事をより楽しんでもらえるよう工夫し支援されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	全入居者の1日の水分量を表に記入し，水分が少ない方は工夫しながら飲んで頂いている。栄養バランスは，管理栄養士の下で献立されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後，全入居者の口腔ケアをして毎日チェックをしている。又，舌苔にも注意している。義歯のある方は毎食外して磨いて，夜間義歯をポリドントに浸けて清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	施設全体でオムツ外しに取り組んでいる。自立は難しいが，日中のみや日中，夜間共に綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。	法人施設全体の取り組みでオムツゼロを目指している。利用者の排泄パターンを把握することで適時の声掛けで入所前オムツであった方もリハビリパンツへ移行されている。夜間についても出来る限りオムツは避け定期的なトイレへの誘導で支援できるように努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給，散歩や体操を取り入れ便秘の予防を行っている。それでも難しい方は医師，看護師と相談して下剤でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングで入浴介助を行うことは非常に難しいが，入浴の希望があれば出来るだけ叶えるようにしている。特浴を使用し安全に入浴している。	入浴時間は10：00～11：30と15：00～17：00間に利用者の希望に沿った入浴に努めている。入浴剤を入れたり，音楽を流すなど色々な工夫をして入浴を楽しんで頂けるよう努められている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>夜間不眠だったら昼寝をして頂くか、状況に応じて早めに休んで頂いている。また、体調によっては上肢や下肢を挙げて対応している。季節に応じて空調の調節をしたりタオルケットを使用する等して掛け物調整を行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師や医師に確認して副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して、事故にならないように気を付けている。誤薬を防ぐ為に、3度の確認を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>買い物に行ったり洗濯物をたたんで頂いたり、食器洗い、干し柿作り、らっきょう漬け、梅ジュース等を作って頂く事で、役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また、散歩やドライブ、バイキング等をする事で気分転換の支援を行っている。ケアプランにも取り入れている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>出来るだけ希望に沿う様になっている</p>	<p>施設の廻りは、坂道が多く散歩には適していないが、施設内には広大な庭園もあり施設内外で散歩され併設の事業所利用者とは交流されている。利用者の意向に合わせて出来る限り希望場所に外出できるよう努められている。</p>	<p>施設の立地等の問題はあると思われるが車での外出、遠出が少い。今後は、家族、地域の方の協力を得て外出の機会を増やす取り組みを期待します。</p>
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>紛失した時に入居者や家族に迷惑がかかるので、基本的に現金は持って頂かないようにしている。しかし、売店などで購入された際は毎月の利用料と一緒に請求させて頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族から電話があればいつでも取次いでいる。掛けたい事があれば電話できる支援を行っている。携帯電話を持たれている入居者も居られる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>台所は常に清潔にしている。浴室も毎日掃除している。特にトイレは気持ちよく利用して頂く為に朝、夕と掃除を行っている。決まった時間だけでなく随時清潔には気をつけている。</p>	<p>共有空間の清掃は業者が入り清潔に保たれている。共有空間の壁面には職員と利用者が共同作成した作品が季節ごとに飾られ四季を感じていただけるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下にソファを設置して、くつろいで頂いたり、テーブルの配置を考えて過ごし易い環境を整えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時に馴染みの家具や椅子、テーブルを持参して下さいと伝えている。テレビや亡くなったご主人の写真を飾ったり仏壇、鏡台を持参されている方も居られる。</p>	<p>居室内は、ベットとタンスが備え付けてあり、その他利用者、家族が持ち込まれた使い慣れた調度品が持ち込まれ壁面には家族の写真が飾られたりして居心地の良い空間となっている。基本的に高価なもの以外は持ち込み可能で規制は設けていない。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>キッチンが食堂の側にあるので、キッチンやテーブルで食事の盛り付けをして頂いたり、食器洗いやお盆を拭くなど出来る環境にある。又、トイレの場所も分かり易い様に「便所」と書いて扉に貼っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針と経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度はじめに作り実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭りでぜんざいを作り配っている。夏祭りはここを会場として地域との交流を行っている。また12月は地域の方を呼んで入居者と職員とでしめ縄を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に2ヶ月に一度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度の運営推進会議での報告の内容等を、介護会で話し、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険課の職員、地域包括支援センター、民生委員、町内会長に運営推進会議へ参加して頂き、協力関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上で の拘束、ベッド上での拘束をしない事 にしている。 言葉の拘束にも気をつけて入居者の行動 を抑制しないようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等 について学ぶ機会を持ち、利用者の自 宅や事業所内での虐待が見過される ことがないように注意を払い、防止に努 めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会があ る。意識を高めることで虐待をしない、 させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事 業や成年後見制度について学ぶ機会を 持ち、個々の必要性を関係者と話し合 い、それらを活用できるよう支援して いる。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、 利用者や家族等の不安や疑問点を尋 ね、十分な説明を行い理解・納得を 図っている。</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書を基 に説明を行い、家族の疑問点にもお答 えして理解と納得を得て入居して頂い ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反 映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者 や職員並びに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見を言って下さるよ う説明をしている。職員は家族面会時に 積極的に話しかける等して、話し易い雰 囲気を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また施設内に改善提案箱を設けて職員がいつでも意見を言えるようにしている。		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	スタッフ会議で取り組みの成果を発表したり、賞与の考課を元に把握している。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	ISOによる職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	地域での研修を通して交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	事前面接において家族と本人の話をよく聞き、入居後は職員や入居者同士のコミュニケーションを図れるケアプランも作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接において家族と本人の話をよく聞き、入居の契約時も家族の意向を必ず確認している。入居後も何かあれば連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人の意向をしっかりと聞いてケアプランに取り入れている。リハビリ等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯、掃除、食事作り等を一緒に行い、役割を持って頂く事でやりがいを感じて頂けるよう支援している。又、感謝の言葉を掛けることで、必要とされていることを実感して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が定期的に面会に来られご本人が好きだったおやつを介助して差し上げる事で精神的に不安定な方も安心して過ごすことができ、また何かあれば家族へ連絡して情報の共有をする事で関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハレクで利用者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から或いは家族に聞いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有しサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事を記入し把握するように努めている。又、申し送り等職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時に本人及び家族と話し合いサービス計画書を作成する。1～2ヶ月後に看護師、担当介護員、介護主任、ケアマネでカンファレンスを持ち、再度サービス計画書を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランチェック表やケース記録等で、モニタリングを行いケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の散歩等も他部署の廊下を利用している。 一般浴が困難な入居者に対して、他部署の特浴を使用することで、安心して入浴して頂いている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>あんず祭や菜の花祭りに参加して頂く事により地域の方との交流を深める事が出来る。また毎年年末には地域の方が来られしめ縄作りを一緒に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の症状により、係りつけ医を決めている。又、必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日朝と夕方に看護師へ入居者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得た上で介護計画書を作成し、職員と情報共有を行っている。又、家族が希望すればターミナルケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	介護会や施設内研修で何度も学んでいる。また実際に遭遇した事例は職員間で共有し実践力につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2度消防訓練を行って、火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに尊厳がある事をしっかりと伝えた上で、命令口調や指示的にならないこと、排泄介助の際は周囲の方にも配慮した声掛けをする事でプライバシーの保護にも努めている。そして職員の表情や態度にも十分気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事作りは何を食べたいかを会話の中で聞いている。又、日常生活の中でもまず、「どうしましょうか」と本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は無理をせず遅食にしているが、何でも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れには注意し、食べこぼしがあれば食後速やかに更衣している。又、散髪や爪切りも定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、食器を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。又、一緒に盛り付けをする事で食事を楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	全入居者の1日の水分量を表に記入し、水分量が少ない方は工夫しながら飲んで頂いている。栄養バランスは、管理栄養士の下で献立されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、全入居者の口腔ケアをして毎日チェックをしている。又、舌苔にも注意している。義歯のある方は毎食外して磨いて、夜間義歯をポリドントに浸けて清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	施設全体でオムツ外しに取り組んでいる。自立は難しいが、日中のみや日中、夜間共に綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給、散歩や体操を取り入れ便秘の予防を行っている。それでも難しい方は医師、看護師と相談して下剤でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングで入浴介助を行うことは非常に難しいが、入浴の希望があれば出来るだけ叶えるようにしている。特浴を使用し安全に入浴している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間不眠だったら昼寝をして頂くか、状況に応じて早めに休んで頂いている。また、体調によっては上肢や下肢を挙げて対応している。季節に応じて空調の調節をしたりタオルケットを使用する等して掛け物調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や医師に確認して副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して、事故にならないように気を付けている。誤薬を防ぐ為に、3度の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物に行ったり洗濯物をたたんで頂いたり、食器洗い、干し柿作り、らっきょう漬、梅ジュース等を作って頂く事で、役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また、散歩やドライブ、バイキング等をする事で気分転換の支援を行っている。ケアプランにも取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ希望に沿う様にしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失した時に入居者や家族に迷惑がかかるので、基本的に現金は持って頂かないようにしている。しかし、売店などで購入された際は毎月の利用料と一緒に請求させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から電話があればいつでも取次いでいる。掛けたい事があれば電話できる支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所は常に清潔にしている。浴室も毎日掃除している。特にトイレは気持ちよく使用して頂く為に朝、夕と掃除を行っている。決まった時間だけでなく随時清潔には気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを設置して、くつろいで頂いたり、テーブルの配置を考えて過ごし易い環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの家具や椅子、テーブルを持参して下さいと伝えている。テレビや亡くなったご主人の写真を飾ったり仏壇、鏡台を持参されている方も居られる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	キッチンが食堂の側にあるので、キッチンやテーブルで食事の盛り付けをして頂いたり、食器洗いやお盆を拭くなど出来る環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針と経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度はじめに作り実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭りでぜんざいを作り配っている。夏祭りはここを会場として地域との交流を行っている。また12月は地域の方を呼んで入居者と職員とでしめ縄を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に2ヶ月に一度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度の運営推進会議での報告の内容等を、介護会で話し、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険課の職員、地域包括支援センター、民生委員、町内会長に運営推進会議へ参加して頂き、協力関係を築くように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上で の拘束、ベッド上での拘束をしない事 にしている。 言葉の拘束にも気をつけて入居者の行動 を抑制しないようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等 について学ぶ機会を持ち、利用者の自 宅や事業所内での虐待が見過される ことがないように注意を払い、防止に努 めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会があ る。意識を高めることで虐待をしない、 させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事 業や成年後見制度について学ぶ機会を 持ち、個々の必要性を関係者と話し合 い、それらを活用できるよう支援して いる。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、 利用者や家族等の不安や疑問点を尋 ね、十分な説明を行い理解・納得を 図っている。</p>	<p>契約時に契約書と重要事項説明書を基 に説明を行い、家族の疑問点にもお答 えして理解と納得を得て入居して頂い ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反 映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者 や職員並びに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見を言って下さるよ う説明をしている。職員は家族面会時に 積極的に話しかける等して、話し易い雰 囲気を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また施設内に改善提案箱を設けて職員がいつでも意見を言えるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ会議で取り組みの成果を発表したり、賞与の考課を元に把握している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ISOによる職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域での研修を通して交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接において家族と本人の話をよく聞き、入居後は職員や入居者同士のコミュニケーションを図れるケアプランも作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接において家族と本人の話をよく聞き、入居の契約時も家族の意向を必ず確認している。入居後も何かあれば連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人の意向をしっかりと聞いてケアプランに取り入れている。リハビリ等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯、掃除、食事作り等を一緒に行い、役割を持って頂く事でやりがいを感じて頂けるよう支援している。又、感謝の言葉を掛けることで、必要とされていることを実感して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が定期的に面会に来られご本人が好きだったおやつを介助して差し上げる事で精神的に不安定な方も安心して過ごすことができ、また何かあれば家族へ連絡して情報の共有をする事で関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハレクで利用者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から或いは家族に聞いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有しサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事を記入し把握するように努めている。又、申し送り等職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居時に本人及び家族と話し合いサービス計画書を作成する。1～2ヶ月後に看護師、担当介護員、介護主任、ケアマネでカンファレンスを持ち、再度サービス計画書を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランチェック表やケース記録等で、モニタリングを行いケアプランに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>毎日の散歩等も他部署の廊下を利用している。 一般浴が困難な入居者に対して、他部署の特浴を使用することで、安心して入浴して頂いている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>あんず祭や菜の花祭りに参加して頂く事により地域の方との交流を深める事が出来る。また毎年年末には地域の方が来られしめ縄作りを一緒に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の症状により、係りつけ医を決めている。又、必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日朝と夕方に看護師へ入居者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得た上で介護計画書を作成し、職員と情報共有を行っている。又、家族が希望すればターミナルケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	介護会や施設内研修で何度も学んでいる。また実際に遭遇した事例は職員間で共有し実践力につなげている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2度消防訓練を行って、火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに尊厳がある事をしっかりと伝えた上で、命令口調や指示的にならないこと、排泄介助の際は周囲の方にも配慮した声掛けをする事でプライバシーの保護にも努めている。そして職員の表情や態度にも十分気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事作りは何を食べたいかを会話の中で聞いている。又、日常生活の中でもまず、「どうしましょうか」と本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は無理をせず遅食にしているが、何でも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れには注意し、食べこぼしがあれば食後速やかに更衣している。又、散髪や爪切りも定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、食器を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。又、一緒に盛り付けをする事で食事を楽しんで頂けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	全入居者の1日の水分量を表に記入し、水分量が少ない方は工夫しながら飲んで頂いている。栄養バランスは、管理栄養士の下で献立されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、全入居者の口腔ケアをして毎日チェックをしている。又、舌苔にも注意している。義歯のある方は毎食外して磨いて、夜間義歯をポリデントに浸けて清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	施設全体でオムツ外しに取り組んでいる。自立は難しいが、日中のみや日中、夜間共に綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給、散歩や体操を取り入れ便秘の予防を行っている。それでも難しい方は医師、看護師と相談して下剤でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングで入浴介助を行うことは非常に難しいが、入浴の希望があれば出来るだけ叶えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間不眠だったら昼寝をして頂くか、状況に応じて早めに休んで頂いている。また、体調によっては上肢や下肢を挙げて対応している。季節に応じて空調の調節をしたりタオルケットを使用する等して掛け物調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や医師に確認して副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して、事故にならないように気を付けている。誤薬を防ぐ為に、3度の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物に行ったり洗濯物をたたんで頂いたり、食器洗い、干し柿作り、らっきょう漬、梅ジュース等を作って頂く事で、役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また、散歩やドライブ、バイキング等をする事で気分転換の支援を行っている。ケアプランにも取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ希望に沿う様にしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失した時に入居者や家族に迷惑がかかるので、基本的に現金は持って頂かないようにしている。しかし、売店などで購入された際は毎月の利用料と一緒に請求させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から電話があればいつでも取次いでいる。掛けたい事があれば電話できる支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所は常に清潔にしている。浴室も毎日掃除している。特にトイレは気持ちよく使用して頂く為に朝、夕と掃除を行っている。決まった時間だけでなく随時清潔には気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に長椅子を設置して、くつろいで頂いたり、テーブルの配置を考えて過ごし易い環境を整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に馴染みの家具や椅子、テーブルを持参して下さいと伝えている。テレビや亡くなったご主人の写真を飾ったり仏壇、鏡台を持参されている方も居られる。		
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	キッチンが食堂の側にあるので、キッチンやテーブルで食事の盛り付けをして頂いたり、食器洗いやお盆を拭くなど出来る環境にある。又、トイレの場所も分かり易い様に「便所」と書いて扉に貼っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム エクセル鞆の浦

作成日 平成27年 2月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	2F楽の家の入居者様で活動的な方おられる。知らないうちに館内へ散歩に出かけられる事が多々みられ所在確認が難しい。	他部署と連携を取っている為、見かけたときには連絡を受けているが、その際に、抑制的な言葉掛けにならないように心掛けたい。	職員は連絡を受けたり、見かけたときには他部署で楽しまれておられたことを理解して、快い言葉かけでお出迎えをする。	2週間
2	40	座位時に麻痺等で傾きがみられる入居者様がおられる為、誤嚥防止に努めたい。	正しい姿勢を保ち、誤嚥防止に努めたい。	座位時、傾きがないか、座面は深く座れているか、椅子の高さは合っているか、両腕はテーブルの上へ出ているか等を確認し、誤嚥防止に努める。	2週間
3	42	ブラシを口腔内へ入れるだけで嫌がられる入居者様がおられ、口臭の原因になっている。	口腔内を清潔に保つことで、美味しく食事を食べて頂く。又、不快感を取り除きたい。	声掛けの下、これから口腔ケアを行う事を目で確認して頂き、ブラシが難しければ、ハミング等のスポンジで試してみる。	2週間
4	4	運営推進会議で事業の運営に関するもの及び事故報告、ヒヤリハットなどの開示がなされていない。	事業所の取り組み、どのような事故が起こっていて、それに対してどう対策を立てて取り組んでいるのかなどを、運営推進会議で発表したい。	リスクマネジメント部会が月々の事故・ヒヤリの内容をまとめ、分析しているのので、それをもとに取り組みを伝える。	6か月
5	49	車での外出、遠出が少ない。	外出の機会を少しでも増やして、入居者の気分転換を図りたい。	他の事業所と協力して外出の機会を設ける。又、食事作りの買い物にお連れしたり、誕生日等を利用し、家族と交流を持てるようにしたい。	6か月
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。